

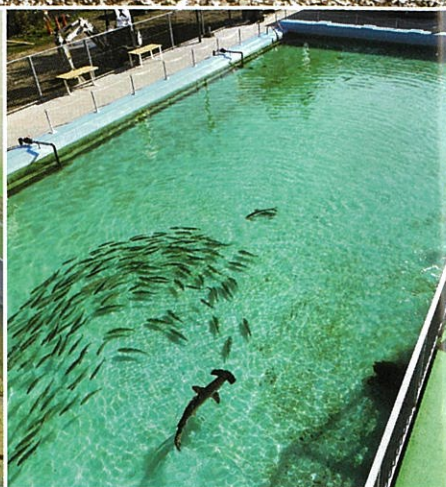


## 廃校を活用した ミニ水族館の運営

高知県室戸市 むろと廃校水族館







## 過疎化が深刻な室戸市

高知県東部に位置する室戸市は、かつてはマグロ漁で栄えた漁師町。過疎化が深刻な市で、かつて3万人以上だった人口は現在約1万3000人。16校あった小学校のうち11校が廃校となった。むろと廃校水族館は、2001年に休校し、2006年に廃校となった室戸市立椎名小学校を水族館に変身させた施設で、2018年4月にオープン。子どもの声が消えた廃校に再び子どもたちの声に戻ってきた。

通常、水族館を作る場合は背景人口や交通の便、大都市圏からの距離を考慮して検討されるが、室戸は高速道路も鉄軌道もない、全ての条件が揃わない地域であった。しかし、目の前を国道55号線が通っていることは救いであり、国道を通過する行楽客にいか水族館へ寄ってもらうかを念頭に、計画を立てていった。

## 豊かな海の恵み

室戸市は太平洋の豊かな恵みに満ちた漁場がある。関西圏の水族館も室戸から展示生物を調達している。当館がある椎名地区をはじめ、周辺には集落ごとに定置網の組合が存在する。展示されている生物のほとんどが定置網漁師からで、主に商品にならない魚を頂戴している。また、個人漁師や一般の釣り人、磯遊びをする家族などからも生物が持ち込まれる。

## 徹底したローコスト運営

小さな水族館は敷居が低く、展示生物の調達は多くの人々の善意に支えられており、これまでの展示生物はすべて無料で頂戴している。とはいえ、水族館はコストのかかる施設。運営費が施設維持の負担とならないように徹底した効率化を図っている。25メートルプールを屋外大水槽とし、ウミガメやサメが泳ぐ。また、

水深が必要な魚種や飼育が大掛かりになる魚種は取り扱わない。アイドル不在の水族館である。身の丈に合ったコンパニオナル水族館を運営スタイルとしており、イルカやアシカ、ペンギンを展示するデパートのような水族館は目指していない。

飼育生物のサイズも軽トラに載せた水槽で運べるものに限定。活魚車などコストのかかる車両は所有していない。また、水温が上昇する夏には夏の魚、水温が下がる冬には冬の魚を入れることにより、水温管理のコストを抑えると共に、季節ごとに展示が変化することからリピーターの獲得にも寄与している。

図書室の本や机やイス、その他の教材など館内の備品も周辺の廃校から集めたものばかり。校舎のみならず、使われなくなった備品にも再び命を吹き込んだ。

## 攻めずに広める広報戦略

水族館にホームページはない。ブログやフェイスブック、インスタも利用していない。情報発信はツイッターのみ。また、これまでにポスターやチラシも制作したことがなく、広報宣伝に時間と人材を割いていない。

プレスリリースも一度も出したことがない。メディアを呼んで取材してもらうよりも、「行きたい」と思っ来てくれたメディアを大切にしようという戦略である。

今後10年以上も各地の課題となるであろう「廃校」を全面に出したことが功を奏し、メディアに度々取り上げられた。これまで「台風」の度にメディアに登場してきた室戸は、地元住民からは「負」のイメージでしか取り上げられないと嘆かれていた。最近では地域活性化や地方創生といった明るい話題で取り上げられることに多くの住民や室戸出身者から喜びの声を頂いている。

全国から見学者や実習生、地方議員の視察が相次いでいることから、知名度は全国区になっていると感じている。





## 学校と水族館、双方を活用したイベント

元日には水族館らしくイカ墨を使った書初め大会を実施。書いてもらった字を1年掲示することにより、学校らしさの演出にもつなげている。夏休みの混雑するお盆にはラジオ体操を実施し、開館時間を前倒しすることにより、入館者の分散を図っている。そして、早朝に実施することにより地元への宿泊につながるほか、近隣施設へ行く時間的余裕も生まれている。

家庭科室では地元漁師を講師に魚さばき体験を実施。理科室では大学生や専門学校生を対象にエイやサメの解剖実習を実施。様々な教室がある学校施設を活用したイベントが次々と生まれている。

また地域の飲食店と共に季節の魚のイベントも展開するなど、水族館の入館者を地域経済にいかに関与させるかを考える日々である。

## まとめ

地域資源の活用と工夫を凝らした水族館の見学者は2018年4月の開校から2年で30万人を超え、高知県東部一帯の観光や経済をけん引する施設となった。室戸市の指定管理施設ではあるが、指定管理料は0円。水道光熱費や人件費等、運営のすべては入館料やグッズの売上で賄っている。

職員のほとんどは学芸員資格を持ち、地域から提供された收藏品が地域外へ散逸しない博物館的な役割も担う。高知県東部地域には大学や専門学校がない中、若い世代が全国から集う施設にもなった。その効果はすでに表れ、3年連続で、水族館に関係した若者が室戸で就職をし、若者たちに地域の魅力を伝える役割も果たしている。